





## 無雪期搬出訓練 感想文

相川広秋

初めての訓練参加である。京都労山の救助隊が実施するというので、相当高度な内容をやる訓練と思っていたが、ハイキング中に通常装備している機材を用いての基本的な訓練であった。各自のレベルに応じて、10人前後の班を数班作り、各班には3～4人の指導者がつき、全員が理解できるまで丁寧に指導して下さった。簡易ハーネスやロープワークの作り方にも色々あることが分かり、大変ためになる訓練でした。これからも、いろんな訓練や講習会には、できる限り積極的に参加していきたいと思います。

川田まり

山友会に入会して初めての参加となるのが、この無雪期搬出訓練でした。道具も揃っておらず、どんな訓練なのかと不安もありましたが参加して良かったです。基礎のロープワークを何度も身に着くまで指導していただき、それも斜面を使っての訓練でしたが、怖いことはなく、安全を得るための「自己ビレイ」も含め繰り返し体験させてもらうことができました。実際に体験したことで、忘れやすい私でも今回学んだ基礎の基礎はしっかりと覚えておきたいと思います。車を出していただいたNさん、ありがとうございました。車中での皆さんのお話を聞いているのも楽しかったです。

井上尚子

山友会でも教えていただいた色々なロープの結び方、簡易ハーネスを作りそれらを使ってのセルフレスキューの実践は、ベテランのスタッフの方々に丁寧にご指導いただき、一步まちがえればケガにつながる緊張感も感じながら、なんとかやりきれてほっとしました。忘れない様、時々復習も必要かなとも思いました。

森本竜二

山友会に入会し2年間、保険は日山のハイキングコースに入っていました。そのため労山の催しへの参加は遠慮していました。労山の保険に切り替え、無雪期搬出訓練は昨年に続き2回目の参加となりました。

設定はハイキング中に登山道から滑落した仲間を救出するというもので、携行している細引き・

120cmスリング（簡易ハーネス用）・安全環付きカラビナ・60cmスリングとカラビナ×2で行います。細引きは各自が10mは携行するのが望ましく、必要に応じてオーバーハンドノットで繋いで使用します。

救助に当たった安全確保は2通りを習得しました。ハンマストを使ってのやり方と輪っかを作った細引きに、2本のスリングに接続したカラビナを付け替える方法です。

ハイキングにおいても訓練に使用した装備は携行するようにします。